



農業委員会だより

■発行人 飯山市農業委員会 松永晋一
■編集 飯山市農業委員会 情報委員会

飯山市
農業委員会事務局
飯山市役所農林課内
電話：62-3111
(内線261)
FAX：62-6221

農業委員会

研修視察報告

『食』への雪利用



飯山市においては、古くから冬期間無尽蔵に存在する「雪」を利用しようと工夫してきた歴史があります。雪国と呼ばれる地域では他にはない独自の文

化が育まれ、苦しかった過去の歴史を踏まえ、克雪から利雪・親雪へとわれわれの意識も変わってきました。

また、雪は日常生活や経済活動に大きな影響を及ぼすばかりではなく、水資源や観光資源などとしても自然環境や産業などに大きな恵みをもたらします。そこで、近年注目されているのが農業・食の分野への利用です。

既に市民権を得ているスノーキャロットをはじめ、雪には農産物に付加価値を与えることができる不思議な力があります。また、農産物を雪の中で保存すると鮮

度が保たれることも古くから行われてきた利雪の方法です。

今回、農業委員会では、飯山市大字旭にある、市で運営している雪室実験棟を視察しました。

今までに試験的に酒類、穀物、農産物、果樹などを雪室内で貯蔵し、味の変化を観察しており、試食会などでは雪室貯蔵とそうでないものを比較し、おおむね雪室貯蔵の方が味が良くなるなど好評を得ているとのことでした。

現在は、入れる雪の量を調整しながら、経費とそれに見合う農産物の選定など、施設の運用に努めています。今のところ皆さまが気軽に利用できる状況ではありませんが、本格運用の際には、雪室の中で付加価値を与えられた飯山産の農産物が高値で市場流通することが期待されます。
(農業委員会事務局)

人・農地プランの実質化へ

現在、国では「人・農地プランの実質化」という考えを推進しています。これは、平成25年から平成29年にかけて各地区で策定した「人・農地プラン」を形骸化させず、さらに推進していくための方策です。このプランを基に新規就農者や担い手への農地集積を推進し、遊休荒廃農地の解消や地域農業の発展に寄与するというのが国の方針です。

飯山市は千曲川を中心とする農村地帯であり、水稲栽培が古くから営まれてきました。また、坂井芋や常盤ごぼうが信州の伝統野菜の指定を受けるなど、その肥沃な沖積地を利用した農業が盛んに行われてきました。しかし、地勢上、周囲を山に囲まれ中山間地域が

多く存在する地域でもあるため、人口の減少と相まって、一般的に条件が不利地と言われる中山間地域の農地から遊休荒廃化が進み、緩衝地帯の減少から獣害も引き起こすなど、生活への影響も始まっています。

この様な状況の中、地域の農業や暮らしを守っていくためにはどうしたら良いのか。木島地区ではその崇高な目的のため、地域での話し合いを基本とする、「人・農地プランの実質化」に取り組んでいます。

最初に地域農業の実態や課題を掘り起こすため、地区全体へのアンケート調査を実施しました。その結果を基に、既存の「地区農業再生センター」を基本としながら組織を再編し、ワーキンググループを設置して話し合いの場を整えました。浮き彫りとなった地域農業の実態や課題を解決するため、昨年度は20回程の話し

あぜ道だより



飯山地区農業委員 山崎 隆寛

農業委員一年生

「えっ！農業委員なの!?」と多くの方が驚かれます。私は昨年度より農業委員会の委員になりましたが、きつかけはみゆき野青年会議所でした。「農業従事者ではない方で誰か1名を選出して欲しい。」と飯山市から依頼がありました。私は市内で小売店を経営しており、農業の経験が全くと言っていいほどありません。

農業委員と聞くと農業のスペシャリストというのが当初の発想だったので、私のような者に務まるのかどうか疑問も抱きましたが、実は以前から飯山市の基幹産業である農業の現状について知りたいという気持ちがあり、こんな機会はめっ

たにないと思ってお受けいたしました。

業務をこなす中で印象に残っているのは、昨年、農業委員に就任後に初めて実施した農地パトロールでした。普段は何気なく見ている飯山の風景も、農地という目線で見るとは今までなかったもので新鮮でもあり、また、多くの気付きもありました。手入れが行き届いた農地もあれば、主に中山間地域では山林化しているような農地もありました。当たり前の田舎の風景も農業に携わっている方々が田畑を手入れしてくれているからこそ、生き生きとして奇麗なのだとあらためて実感いたしました。

しかしながら、農地の担い手は高齢化が進み、「今は良いけど、この先守っていくのかどうか不安だ。」という気持ちを持たれている方も相当数いらっしゃると思います。劇的な解決策はないにせよ、地道な活動を続けることで、人と農地の継承のお手伝いができればと考えております。それには私自身も勉強をしなければなりません。

あしあと 5・6月の活動記録

- 5月10日 農業委員会役員会
- 29日 5月農業委員会総会
- // 管内研修視察
- // 情報委員会
- 6月10日 農業委員会役員会
- 26日 6月農業委員会総会



し、先輩方の意見も積極的に聞いていかなければなりません。三十代後半ですが農業委員会の中では一番若い年代です。今後はこれからの飯山の農業を背負っていかれる若い世代の方々と交流を広げていき、私の様に農業経験のない若者も農業に魅力を感じていただく一助となれば幸いです。微力ではありますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

木島地区水稲振興委員会



合いを持ったそうです。

また、人・農地プランへの登載希望者、農地の貸し借り希望のアンケート調査を実施し、今後、国において補助事業などの対象者の絞り込みが予想される、「人・農地プランの実質化」へ対応するための取り組みも動き出しました。課題を整理し地域全体で共通認識を持つことにより、課題の解決方法が見えてくる可能性があります。まだ始まったばかりですが、今後の木島地区の取組みが注目されるとともに、他地区への広がりも期待されるそうです。
(農林課 振興係)

農地利用状況調査(農地パトロール)を実施します

農業委員会では農地の確保と遊休農地化の防止を目的として、農地の利用状況調査を実施します。

農地への立ち入りなどにつきまして、ご理解とご協力をお願いいたします。

調査の期間：7月から8月まで

